

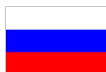
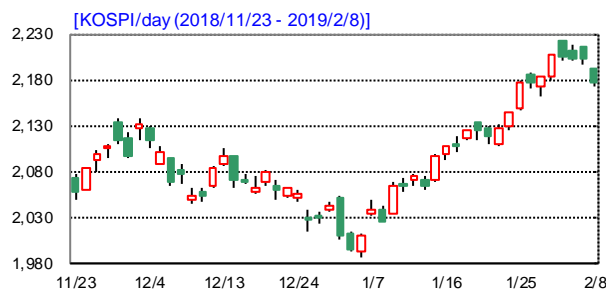


【韓国】 総合指数は週間で1.2%安と5週ぶり反落、米中貿易協議に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.2%安と5週ぶり反落。旧正月連休のため2日間の取引だった。今週の米中閣僚級協議に加え、今月末の米朝首脳会談といった重要イベントを控え、様子見ムードが漂った。連休明け7日はほぼ横ばい。米朝首脳会談の日程が27-28日に決定したことを受け、南北経済協力が再開されれば恩恵を受けそうなインフラ関連銘柄が買われた。8日は4日続落。トランプ米大統領が3月1日の期限までに習近平国家主席と会談する予定はないと発言したと伝わり、米中貿易協議の先行きに対する懸念が再燃した。個別ではモバイルゲーム大手のネットマーブルが場中に一時、約15%の大幅高。同業のネクソンの支配権取得を巡って、中国IT大手のテンセントなどと企業連合を組み、入札に参加すると報じられた。

▼指数チャート

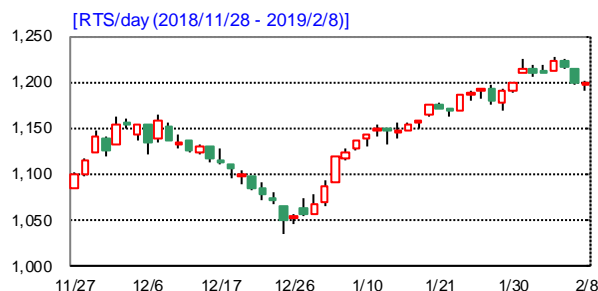


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.0%安と6週ぶりに反落、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.0%安と6週ぶりに反落。前週までの5週続伸を受けた高値警戒感や原油安、通貨安などが重しとなり、週後半に崩れた。指数は週明けにほぼ変わらずでスタートした後、5日は1.0%高。時価総額3位の石油大手ロスネフチが自社株買い計画を発表し、前日比4.3%高と指数をけん引した。ルーブル建てのロシアMOEX総合指数は1月29日から6営業日続伸し、過去最高値を更新した。ただ、6日にMOEX総合指数が高値更新後に反落したことに連れRTS指数も0.6%安と反落。7日は米中貿易協議進展への期待のはく落で投資家心理が悪化する中、ルーブルが1月下旬の水準まで下落したことや原油相場下落が嫌気され、指数は1.3%安と続落した。今週は原油相場や米中協議をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート

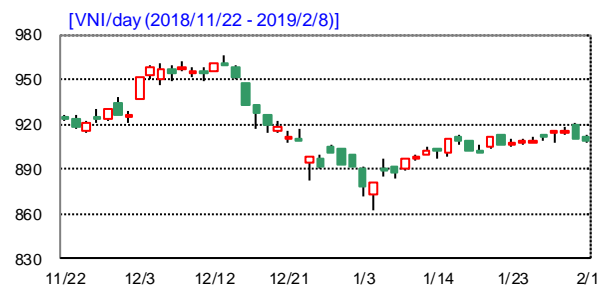


【ベトナム】 ベトナム市場は旧正月の連休で休場、今週は底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

ベトナム市場は旧正月の連休のため1週間にわたり休場だった。年初から連休前に当たる2月1日までの上昇率は1.8%。1月初めには米アップルが売上高見通しを引き下げたことで、韓国のサムスン電子がスマートフォン製造の最大拠点を抱えるベトナムでもスマホ市場低迷が経済に悪影響を及ぼすとの懸念が広がった。ただ、その後はパウエル米FRB議長らのハト派的姿勢を受けて新興国からの資金流出懸念が後退し、持ち直している。今週は新興国からの資金流出懸念の後退を支援に底堅い展開か。外部要因では14日に北京で始まる米中貿易交渉の閣僚級協議が注目される。交渉期限の3月1日まで3週間を切る中、妥結に向けて何らかの進展があれば新興国の株式市場全体を押し上げる展開が見込まれる。

▼指数チャート



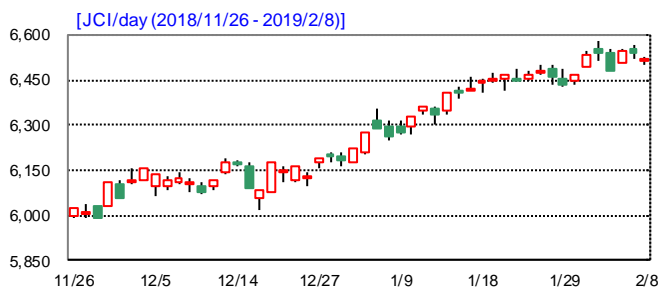


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%安、GDP が市場予想を上回るも 7 週ぶりに反落

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 0.3%安と 7 週ぶりに反落。祝日明けの反発をその後の下落で帳消しにした。週初の 4 日は旧正月前の買い控えて 4 営業日ぶりに反落。一方、旧正月の祝日を挟んだ 6 日は 18 年 10-12 月の GDP が前年同期比 5.2%増と市場予想から小幅ながら上振れしたことが好感され、指数は終値ベースで前営業日比 1.0%高と反発した。ただ、勢いは続かず 7 日に反落すると、8 日はトランプ米大統領が中国との貿易協定の期限となっている 3 月 1 日までに首脳会談を開催する予定がないと発言したことが投資家心理を冷やし、続落して引けた。今週は 15 日に 1 月の貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート

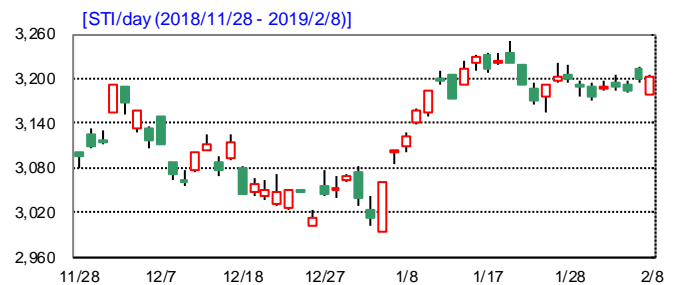


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.4%高、米中貿易協議への期待広がる

スレーツタイムズ指数は 3 日間の取引で 0.4%高と 3 週ぶりに反発。おおむね堅調に推移した。週初の 4 日は旧正月前の薄商いで続落してスタート。同日の取引終了後に発表された 1 月の製造業 PMI は 50.7 と 5 カ月連続で前月を下回った。ただ、株式相場への影響は小さく、連休を挟んだ 7 日は翌週に米中貿易問題を巡る閣僚級協議が北京で開催されることへの期待感から買われ、指数は終値で 7 営業日ぶりに 3200 ポイントを回復。8 日も続伸し 2 週間ぶりの高値を更新して取引を終えた。今週は 12 日発表の 18 年 12 月の小売売上高に対する市場の反応に注目。外部要因では中国の 1 月の貿易統計が焦点になる。

▼指数チャート

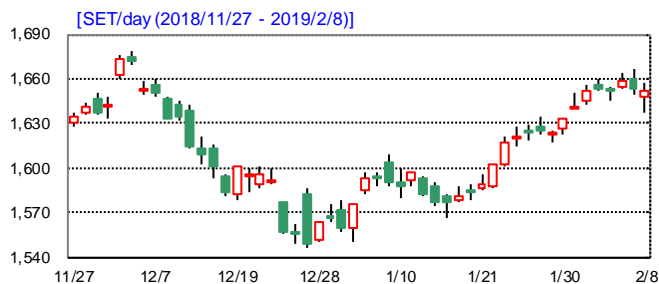


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.02%高、中央銀行が景気拡大の継続見通しを発表

SET 指数は週間で 0.02%高とほぼ横ばい。小幅なレンジでの値動きが続いた。週初の 4 日は原油価格の上昇を受けてエネルギー株が買われ、指数は 4 営業日続伸。5 日はわずかに反落したが、6 日は中央銀行が金融政策決定会合後の声明で、外需の減退を内需で補い、景気拡大が続くとの見解を示したことが好感されて反発した。政策金利は市場の予想通り 1.75%に据え置かれている。週後半は買い材料に乏しく、週末まで続落して引けた。タイでは 3 月 24 日に総選挙が予定されており、前週末にはタクシン元首相派が王女を次期首相候補に擁立したが、その後に撤回した。政局の動向も市場で意識されそうだ。

▼指数チャート

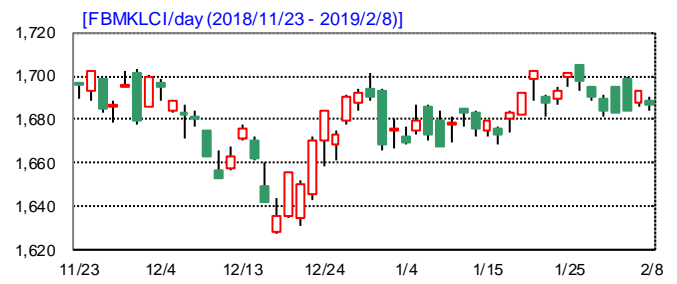


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%高、今週は 14 日に 18 年 10-12 月期の GDP 発表

クアラルンプール総合指数は 3 日間の取引で 0.2%高と反発。週末の反落が上昇幅を縮めた。4 日は半日立ち合いで薄商いの中、前週末からほぼ横ばい。連休明けの 7 日はテナガ・ナショナルなどの大型株が指数上昇をけん引した。一方、8 日は通信大手のアシアタ・グループが下げを主導し 3 日ぶりに反落。同社は 15 年に買収したネパールの子会社エヌセルの株式取得に伴う 5 億 4000 万米ドル相当のキャピタルゲイン税の支払いを最高裁判所から命じられたことが嫌気された。今週は 14 日に 18 年 10-12 月期の GDP が発表される予定。14-15 日に北京で開催される米中の閣僚級貿易協議の動向にも注目が集まる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。